

スカラー砲で撃ち落とされた卵型 ET 宇宙船

それを運んだヘリ操縦士の人生を変えるほどの体験

2025 年 1 月 31 日

グッチ

*ロス・クールハートがジェイク・バーバーにインタビューした内容から、一番重要な部分を和訳します。

ジェイク・ハーバーは USAPs の施設で卵型 ET 宇宙船や八角形の人工宇宙船をヘリで運搬する業務をしていた人物です。

このインタビューは Youtube チャンネル NewsNation Exclusive に 1 月 2 5 日に発表されたものです。

ジェイクは 2 0 2 3 年 9 月中旬にグリアをヘリに乗せてカリフォルニア州境のモハーヴェ砂漠にあるロッキード・レインジ 3 施設を上空から見せてくれた人物でもあります。

グリアはその施設にあった電磁スカラーパルス砲の写真などを自分のスマホで撮影しました。

そのあたりはファイル「[電磁スカラーパルス砲の存在について](#)」で既に報告しました。

ジェイクはその施設に雇われて卵型の ET 宇宙船や八角形の人工 UFO をヘリで回収する仕事をやらされていましたが、グリアのように USAPs 組織の全体を見通せているわけではなく、インタビューでも、この施設は米国政府のものだと思っている発言をしています。

グリアは USAPs で働く人たちの内部告発から多くの事実を把握していますが、政府高官でもアクセス権がないと USAPs の存在は知りません。

ジェイクの認識にも限りがありますが、実際に ET 宇宙船をヘリから吊るして運んだ経験は彼にしか語れないことで重要な証言となります。

その運ばれていく卵型宇宙船の中に生きた ET たちがいたことが分かる体験は、非常に強いインパクトを寄こします。

彼の体験を追体験することによって軍産複合体の USAPs が宇宙から訪問している彼らに対しどんなに酷い仕打ちをしているかを感じ取れると思います。

物体の回収は夜行われることもあるが、昼間の方が多いという。

彼らが作業しているのは米国内でも最も標高が高く険しい地域であり、物体や物体の

破片を運ぶ作業は日が昇るまで待つことが多い。

ヘリは物体を吊り上げるピックアップ・サイトと、届けて降ろすドロップ・サイトの2つを行き来する。

[卵型宇宙船をヘリが運ぶ動画](#)（この動画はジェイクではない匿名の人物が撮ってグリアに提供したもの。最初に登場して解説する男性はロス・クールハート。）

以下和訳（動画の47分～52分）

[UFO whistleblower Jake Barber would '100% testify' under oath to Congress | Reality Check](#)

ジェイク： ピックアップ・サイトにもドロップ・サイトにも人員が配備されています。ピックアップ・チームはフライトに向けて積み荷を用意するのです。

ロス：宇宙船は何であれ、とにかくロープに吊るされた籠の中に入れてヘリを待つわけですね。

ジェイク：そうです。吊り籠の中に入れられます。そんな籠があるのです。

パンプキン（カボチャ）と呼ばれていました。ゴム生地の袋、あるいは容器です。

私はこの目で見ましたが、宇宙船はパンプキンの中に取まっていました。

少なくとも底部と側面は取まっていました。

これから私がお話することはこれまで人生で経験した中でも最も深く心に刻み込まれたものです。

どうか最後まで聞いてください。

それはピックアップ・サイトに次第に近づいていた時です。

変な感じがし始めました。

感情がすごく揺さぶられ出したのです。

ピックアップ・サイトに近づけば近づくほど、その感情の揺れはますます私を圧倒し始めました。

ロス：あなたは何を感じたのですか？どんな感情でしたか？

ジェイク：私の母のような感じです。どう説明していいか分かりません。

私を感じたのは悲しさと楽しさとが密に混じりあった感情、それから美しさ！そして歌のようなもの。

それは私にとっては身を亡ぼすような強い感情でした。

だって私はそのとき夜間にヘリで山地を飛ぶという任務を帯びていたからです。

私は自分がおかしくなってしまったのではないかと思い始めました。

夜も遅いし、ストレスを受けているのではないか、疲れているのではないか？

ホルモンのコルチゾンとエストロゲンに翻弄されているのではないか？

よく分からなかった。

そしてピックアップする物体の上空にさしかかったとき、圧倒的に強い感情に襲われました。

ロス：その物体は何と言ってるのです？何を感じたか教えてください。

ジェイク：悲しみと楽しさがない混ざった圧倒的な感覚のようなものです。

ロス：それはあなた自身の感情ですか？あなたは工作中、突然メンタルが崩壊したということですか？

ジェイク：いや、違います。

何かが私とつながったような感覚です。

何かが私の魂に周波数を合わせてきたように感じたのです。

そして私が何をすべきか、その道筋を示してくれるような感覚です。

それは私の行為がどんなに重大なことなのかを分からせようとする。

その感情があまりに圧倒的なので私は泣き出してしまいました。

ロス：ナイトビジョン・ゴーグルをつけて夜間飛行中に泣くのは、ヘリの操縦に適しているとは、とても思えないのですが。

ジェイク： そう、その通りです。私は泣きながら同時に自分が泣いていることに戸惑っていました。

自分の任務を果たせなくなるのではないかと。

それでこの作業をするときにとるべき手順に集中するようベストを尽くしました。

そして荷物を吊り上げ、ピックアップ・サイトを離れました。

私とその物体とが一緒に飛んだのです。

ピックアップ・サイトとドロップ・サイトの間は20マイルほどありました。

その間、私は何かが私の内のように感じていました。

私はこれまで経験したことのない最高に（動揺し泣き出す）美しいスピリットが私の内にいるのを感じました。そして…

ロス：そのスピリットは愛を注いでいたのですか？

ジェイク：愛していたかって？ 感じたのは悲しさの感覚と同時に…

ロス：あなたはこれまでに…これに似た経験をしたことがありましたか？

ジェイク：いや、ありません。あれはとても女性的なエネルギーでした。

あなたに分かってほしいのですが、私が感じたのは…神のスピリットでした。

私がこれまで感じたことのある男性的なスピリットではなかった。

もう一度言いますが、私の母の感じ、私の娘の感じです。そして美しさを感じた。

それは私に繋がった周波数みたいな感覚でした。

ロス：怖かったですか？

ジェイク：私は私の内にあったものが何だったのか分かりません。

何が私の身に起こったのか、今でも考え続けています。

恐かったというふうには言いたくない。

なぜなら私は今自分に起こっていることが良いことであると分かっているからです。

その力が何であれ、あの夜以来それはずっと私のもとに居続けています。

すごく変に聞こえるでしょうが、それは今でも私に歩むべき道を示してくれています。

それは私のために保護の手を差しのべてくれます。

ロス：それはあなたの人生を変えた？

ジェイク：私の人生を変えました。

以上和訳

あとがき

ジェイクがヘリで運んでいた卵型宇宙船には生きた ET たちがいて、ジェイクに彼らの意識を直接伝達したと思われます。

グリアによれば TAC（テクノロジーにアシストされた意識）は高度な ET 文明ではふつうに用いられており、このケースも彼らの超先進テクノロジーを使ってジェイクの意識に接続するようにチューニングして思いを伝達してきたようです。

ジェイクが E T 宇宙船をヘリで運んでいるときに、E T たちの愛と悲しみの混交した清らかな精神の息吹が押し寄せて泣いてしまったという場面は、多くのことを我々に気付かせてくれはしないでしょうか。

精神が進化し続け、愛の天使の意識に近づいている ET たちをこうしてひどい目に遭

わせることが如何に不条理なことか、野蛮なことかという思いが湧かないでしょうか。

ジェイクの語る話と感情の揺れを見ながら、ETたちの高い精神性をリアルに感じとれて、その分 USAPs たちの行為の悪辣さが際立ってきます。

ジェイク・ハーバーはこの体験で人が変わって、USAPs の施設から逃げ出し、グリアのもとに来て協力しているわけです。

なお、捕らえられた卵型宇宙船はグリアの見立てでは真珠光沢の珍しいタイプで直径 20～25 フィート（6～8 m）くらい。

小さい宇宙船だが、その中にいる ET も 3.5 フィート（1 m）くらいと小さいのでサイズとしては合っている。

グリアは自分は 6 フィート 4 インチ（193 cm）でこの宇宙船には大きすぎるとい

う。

なお、地球を訪問する ET たちの高度な精神レベルに関しては[このファイル](#)を参考にしてください。